α-グルコシダーゼ阻害薬（2型糖尿病用）フォーミュラリ Ver.1.1

2026年8月10日改定

	推奨		オプション	
一般名	**ボグリボース**		**ミグリトール**	
代表的な製品名	GE：ボグリボース	ベイスン(先発)	GE:ミグリトール	セイブル(先発)
標準的1日薬価	32.[4]円(0.6mg/日)	38.[4]円(0.6mg/日)	32.[4]円(150mg/日)	52.[5]円(150mg/日)
効能・効果	①糖尿病の食後過血糖の改善 ②耐糖能異常における2型糖尿病の発生抑制(0.2mgのみ)		糖尿病の食後過血糖の改善	
用法・用量	①1回0.2mgを1日3回、食直前 (効果不十分の場合は1回量を0.3mgまで増量可) ②1回0.2mgを1日3回、食直前		1回50mgを1日3回毎食直前 (効果不十分の場合は1回量を75mgまで増量可)	
半減期	該当資料なし(添付文書、IF)：血漿中に検出されない		2.2時間(50mg空腹時)	
特徴など	・「耐糖能異常における2型糖尿病の発生抑制」の適応を唯一取得(0.2mg) ・後発品で普通錠、OD錠の他に唯一ODフィルム製剤が発売されている ・本薬効群の中で最も繁用されている成分である		・肥満の2型糖尿病患者(日本人)において他剤と比較しHbA1cの低下作用が強くみられるデータがある 1) ・適応外だが食後内服・食直前内服で有効性が変わらないとの報告があり 2) ・小腸上部で吸収され、腎排泄のため透析患者には慎重投与	

【解説】

推奨薬の順位付けは、有効性・安全性・経済性を踏まえて決定した。
有効性・安全性については日本糖尿病学会「糖尿病診療ガイドライン2024」など国内外のガイドラインにおいて使い分けが明記されていない。3),4)
腹部膨満、鼓腸、腹鳴、下痢、放屁の増加、肝障害などの副作用があるが、各製剤で特徴的な差はない。5),6)

アカルボースは耐糖能異常患者において2型糖尿病の発生抑制が示されているが、日本では適応がない。また2023年3月をもって先発品であるグルコバイ錠、同OD錠の経過措置が満了となった。現在は後発品のみが流通しているが国内における処方流通量は極端に少ないため推奨から外した。

【参考ガイドライン・文献】

1)Hitoshi Sugihara,et al. Comparison of three α-glucosidase inhibitors for glycemic control and bodyweight reduction in Japanese patients with obese type 2 diabetes. J Diabetes Investig.2014 Mar 23;5(2):206-212.PMID:24843762
2)Kazutaka Aoki,et al. Effects of pre-meal versus post-meal adminstration of miglitol on plasma glucagon-like peptide-1 and glucosedependent insulinotropic polypeptide levels in healthy men. Endocrine Journal 2010, 57(8),673-677.PMID:20519807
3)日本糖尿病学会：糖尿病ガイドライン2024、糖尿病診療ガイドライン2024、高齢者糖尿病診療ガイドライン2023
4)日本腎臓学会：エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023
5)Mi Young Lee,et al. Comparison of Acarbose and Voglibose in Diabete Patients Who Are Inadequately Controlled with Basal Insulin Treatment：Randomized Parallel, Open-Label, Active-Controlled Study.J Korean Sci.2014 Jan;29(1):90-97.PMID:20558922
6)Kazutaka Aoki,et al. Comparsion of Adverse Gastrointestinal Effects of Acarbose and Miglitol in Healthy Men: A Crossover Study. Inter Med 49:1085-1087.2010.PMID:20558922